

# 生きがい

## 前川原トシエさん(76歳)



十和田湖ろまん短歌会の皆さん



生きがいを持つことは大きな幸せです。自分が好きなことややりたいこと、幸福感を得られるものを生きがいといいます。生きがいは夢や目標であったり、人の役に立ることであったり、自分を生かせることや充実感を感じられることなどさまざまです。本市の各公民館には、多種多様な生涯学習の機会が設けられています。今回は十和田湖公民館で開催されている十和田湖ろまん短歌会の会員として、8年目を迎える前川原トシエさんに一生懸命に取り組んでいることについて伺いました。

短歌

- 母百歳 祝いに髪梳き<sup>す</sup> 着替えて  
市長の来訪 朝から待てり
- 特攻隊 父散り行きし テニアン島  
白き波間に りんごたむけり
- つばめとぶ 桜青葉の 駒街道  
オブジェの馬に 木漏れ日ゆれる
- 米づくりの 赤字続きに 農業を  
やめる決断 夜空を仰ぐ
- 三日後に 半方に立つと 軍人の  
父との面会 そのまま帰らず
- ニンニクの 収穫終えて シャワー浴び  
夜の歌会に いそいそと行く
- ランプの灯 ほのかに点る 青荷温泉  
異次元の谷間に 一夜を眠る

これらの作品は東奥日報の紙上短歌会「東奥文芸会」に出品したものです。それぞれ天、地人、秀逸、佳作に選ばれた作品です。

また、平成21年7月26日においらせ町で開催された「おいらせ町ハートピア短歌会」で、即席「音」の部で、文化協会長賞を受賞されました。受賞された作品は次の作品です。

■せせらぎの 音に誘われ 上り行く  
奥入瀬溪流 山魚と共に

わたしは十和田湖ろまん短歌会で活動して、ことしで8年目になります。わたしは子どもころ家事が忙しくて、あまり学校に行くことができませんでした。それが影響してか、読み書きもあまり得意ではありませんでした。十和田湖ろまん短歌会に参加したきっかけは、旧十和田湖町役場に勤務していた先輩の勧めで、読み書きを覚えることを目的に入会しました。

会員の皆さんには優しく接していただき、親切に漢字の書き方や短歌のつづり方を教えてくださいました。また指導している中里茉莉子先生のおかげで、少しずつ短歌の楽しみを感じるようになってきました。

今では東奥日報社の紙上「東奥文芸会」への出品作品を月2回提出するようにしています。月2回ある十和田湖ろまん短歌会での中里先生の指導や授業を基に、はがきに自分の作品を書いて提出するもので、今までに多くの賞を頂きました。

多くの賞を受賞することができたのも、中里先生や多くの十和田湖ろまん短歌会の会員の皆さんの温かいご指導のおかげと感謝しています。

